

平成 29 年度第 1 回丸瀬布地域まちづくり会議録（要旨）

- 日 時 平成 29 年 8 月 9 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
- 場 所 丸瀬布コミュニティセンター多目的ホール
- 出 席 柳田会長、谷口委員、能正委員、佐竹委員、須藤委員、鈴木委員
- 欠 席 上野副会長、塘委員、管野委員、関委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、丸瀬布総合支所地域住民課 前川主幹
- 会議内容

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長

2 会長あいさつ

（柳田会長）この会議については、あまりどのような活動をしていくのかあまりはっきりしていなかったが、本来であれば、丸瀬布厚生病院の問題なども関わる問題ではないかと思う。色々な意見をもらいながら、まちづくりのために町長に良い提言ができるよう進めていきたい。よろしく願います。

3 平成 29 年度丸瀬布地域まちづくり会議の進め方について

資料 1 に基づき、中原主幹説明。質疑等なし。

4 町からの話題提供

資料 2 に基づき、佐藤課長説明。質疑等なし。

5 まちづくりワークショップ

ワークショップの進め方について、資料 3 に基づき中原主幹から説明。

個人ワーク、グループワークを実施し、次のような議論が交わされた。

（ごみ収集について）

- ・遠軽に比べてごみ収集の回数が少ない。行政サービスの不公平がある。経費がかかるものはサービスを統一してもらえないのか？
- ・特に資源ごみは 3 週間間隔が開くことがあり困る。

（ひとの流れについて）

- ・人口減少、高齢化の進展、若者が少ない。
- ・老人ホームなどで就労している人も他地域から通うケースが多い。日中人口はもうちょっと多いのではないか。丸瀬布は馴染めば魅力ある地域。職場と自宅の往復ししないと魅力がわからない。馴染んでもらうための方策があるといい。
- ・テレビで定住しないで地域づくりに参加する人＝「風の人」を取り上げている番組を観た。そうした人を集める仕組みがあるといい。よそ者目線は大切。
- ・お試し移住で来ていたキャンピングカーで旅行している人と交流をすると、同じような仲間が次から次とやってきた。インターネットでつながってネットワークを持っている。道の駅などの活用方策としてキャンピングカーにターゲットを絞った取組もいい

のでは。

(商店街について)

- ・お店が少なく、食料品やちょっとした物の買物が不便。
- ・遠軽の飲食店を利用する時に駐車場確保が難しい。特に夜間。

(公共交通について)

- ・交通の便が悪い。バスの本数を増やしてほしい。白滝方面にもバスを（土日も）。
- ・高校通学生は、図書館が閉館すると行く場所がなくなる。

(地域医療について)

- ・子どもの医療費を無償化することで、移住などの効果も期待できるのではないか。
- ・丸瀬布厚生病院の無床化に加え、遠軽厚生病院の医師不足もあり、医療に対する不安が拡大している。
- ・丸瀬布地域は、病院を核に高齢者を集めるまちづくりを進めてきたが、病院無床化に伴い再構築が求められる。マウレと病院の連携も試みられていただけにもったいない。
- ・診療所化した後、地元以外の患者が見えなくなった。
- ・平山先生は、来春開院する予定がある。

(地域活性化策について)

- ・伊奈牛鉦山の活用。
- ・上武利大規模林道を開通させる。
- ・眠っている地域資源を掘り起こすことで、地域の魅力を発信できる。
- ・耕作放棄地が目につく。農業振興を。
- ・町内3か所で開催している花火大会を統合し、もっと盛大に、3か所でローテーション開催するといひ。
- ・高規格道路利用者を降ろすために、白滝～遠軽・生田原間の景観を整備する。
- ・町のホームページが古くさい。
- ・遠軽地域に入った途端（高規格道路から）、暗く感じる。
- ・お試し移住で来ていたキャンピングカーで旅行している人と交流をすると、同じような仲間が次から次とやってきた。インターネットでつながってネットワークを持っている。道の駅などの活用方策としてキャンピングカーにターゲットを絞った取組もいいのでは。（再掲）

(スポーツ交流について)

- ・スポーツを通じた交流の機会がもっとほしい。
- ・少年団活動の継続が少子化で厳しくなっている。フェスティバルや連携会議などがあるといひ。

6 今後のスケジュール

もう1回地域会議を開催する。9月7日（木）か8日（金）18時30分からで出席できる方が多い日で設定する。

7 平成 30 年度以降のまちづくり会議のあり方について
次回協議する。

8 その他
特になし

9 閉会
20 : 30 終了